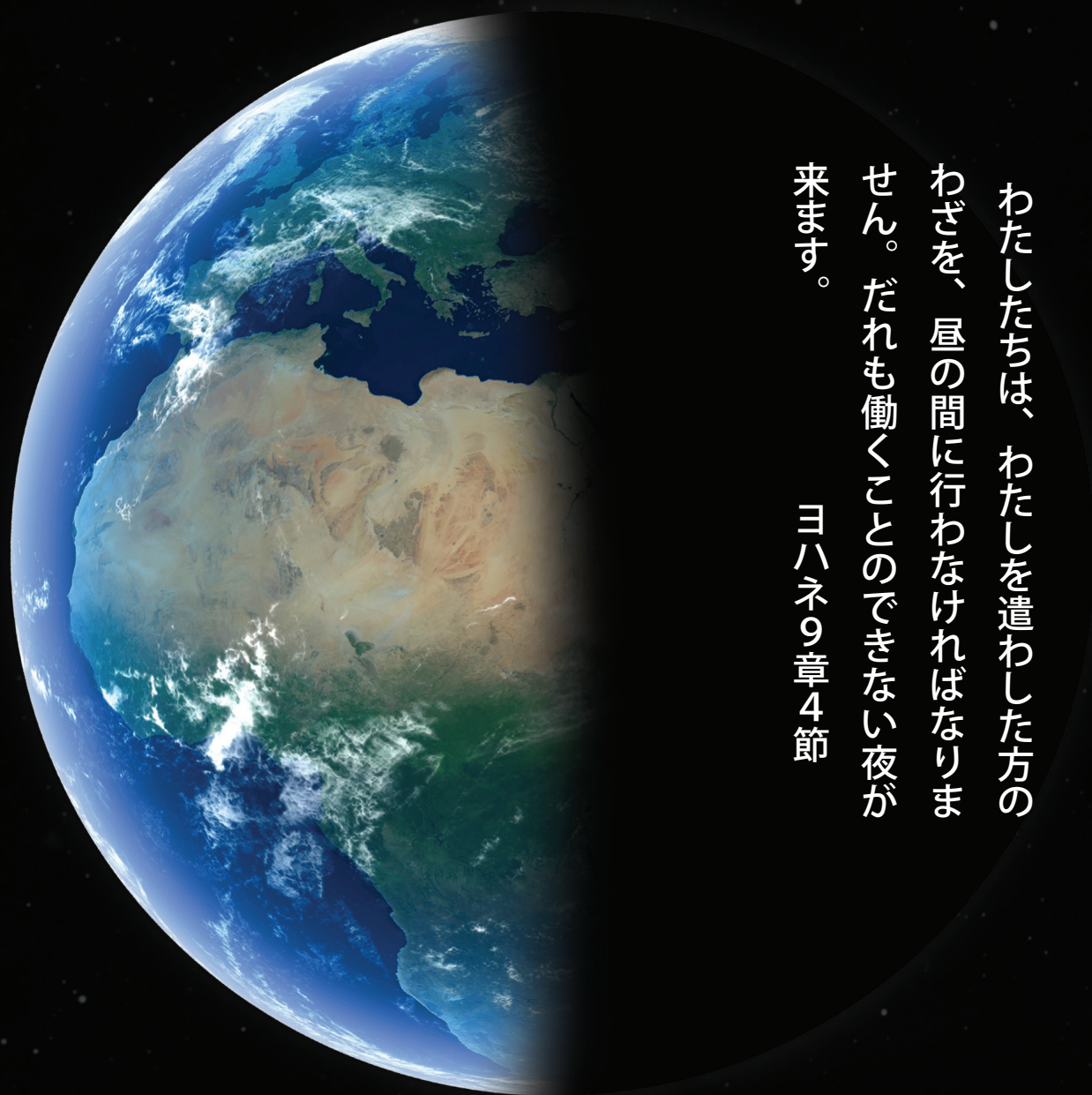


出エジプト作戦

エベネゼル国際緊急基金



わたしたちは、わたしを遣わした方の
わざを、昼の間に行わなければなりま
せん。だれも働くことのできない夜が
来ます。

ヨハネ9章4節

昼の間に

ユダヤ人の帰還を助けるクリスチャンの働き

昼の間にわざを行わなければ なりません…



Ebenezer Emergency Fund
International
Ebenezer House, 5a Poole Road
Bournemouth, BH2 5QJ UK.
Telephone: +44 (0) 1202 294455
Fax: +44 (0) 1202 295550
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org

エベネゼル緊急基金日本支部
〒062-8691 豊平郵便局私書箱37号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
Email : e@eefj.org
ホームページ:
<http://ebenezerjapan.org/>
献金の送付先:
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。

「わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行わなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。」ヨハネ9:4

6月のイギリスでの大会において、エベネゼル東ヨーロッパ地区代表のパディム・ラポチーによると、東ウクライナのルハンスク地区で、運送用の乗用車が親ロシア分離独立派に攻撃されました。その車と貨物は破壊されました。

この出来事自体は、報道されるほどのこともないもののように思われますが、その車は、長期の申請の結果発行されたパスポートを運んでいたのです。現在の変革の状況の中で、この破壊されたパスポートが再発行されるのかどうかも、誰もわからない状況です。ですから、ユダヤ人の家族の中には、このような突然の出来事によってアリヤーとなる準備が座礁させられている家族もいます。このような状況の中では、新しいパスポートを取得することは、非常に困難であり、難しいでしょう。

このような重要な書類を取得することはとても困難なため、エベネゼルのチームが、ユダヤ人達に、たとえいつアリヤーするかをまだ決心できていなかったとしても、早目に、書類を準備しておくように励ますことは驚くことではあ

りません。なぜなら、状況はめまぐるしく変化しており、ますます困難な状況になっているからです。

ウクライナの悪化する状況と、それがアリアにもたらす障害について、パディムはこう説明しています。「私は、このような話をしながら、ヨーロッパの中心部に位置する自分の国について語っているということがほとんど信じられない状況です。…」

「わたしは、すべての国々を揺り動かす。」
ハガイ2:7

ここ何ヶ月の間、西側諸国において、反ユダヤ主義が強まっているという報告を聞かれています。イギリスの大会において、エベネゼル国際CEOのアラン・フィールドは、「極右の行進」つまり、ヨーロッパにおいて反ユダヤの超国家主義的政党が急速に台頭していると述べていました。このことは、ヨーロッパのユダヤ人社会で知られており、その結果アリヤーの問い合わせが急速に増えています。

ラテンアメリカもまた反ユダヤ主義が強まっています。同時に、アリヤーすることが以前よりも困難になってきています。たとえば、アルゼンチンでは、国外への移動に関して、非常に厳しい制限がもうけられて



…誰も働くことのできない 夜が来ます



「ユダヤ人はテロリストだ!」と書かれた車

このような背景の中で、エベネゼル出エジプト作戦は、神の恵みによって、過去23年間主の御手の道具として用いられるように求めてきました。その間にロシアや東ヨーロッパや中央アジアなどでの働きを通して、エベネゼルはユダヤ人を見つけ出し、彼らのアリアを支援するための様々な側面についての多くの知識を得てきました。そして今、これらの知識が、西側の諸国で用いられているのを見えています。

2013年11月のエルサレムでの大会では、ボリス・バシュコフとバディムが、ロシア、東ヨーロッパのリーダー達とともに、ラテンアメリカチームのためにとても意義深い祈りを導きました。そして、すでに私たちはその祈りに対する主の答えを確信させるできごとが起こり始めているのを見えています。

「主はししのようにほえる。まことに主がほえると、子らは西から震えながらやって来る。」ホセア11:10

私たちが、西側諸国からのユダヤ人のアリヤーの支援へと目を向けた時、アメリカのリーダーがそのチャレンジを受けとり、アメリカからのアリヤーの支援を強化する準備を始めました。危機の時は、準備にふさわしい時ではありません。比較的安定している時こそ、準備の時であり、調整をするべき時なのです。いったん危機が訪れたなら、救助のアリヤーは、自分で選択するアリヤーとは非常に異なったものとなるでしょう。

エベネゼル代表がいる50カ国以上において、私たちはみな共通して、困難な時期のために備えをする必要があると感じています。多くのユダヤ人達を支援している国のチームも、祈りと支援のために主に召されている国も、同様に、今後備えと守りを必要とするユダヤ人達を支援していくために準備していく必要があるのです。具体的にどのような状況になるのかはわかりませんが、大きな変化、困難が起こると私たちは感じています。

アリヤーの主であるお方、イスラエルの羊飼ひなる王が、主の御手の中にすべてを握っておられると知ることは

なんとすばらしいことでしょう!この方こそ、アリヤーのはじめであり終わりであるお方です。そしてこの方がご自身の御子が栄光に満ちてエルサレムに帰って来られる備えをしてくださるのです。そしてご自身の義の杓を国々にのばすのです。

祈りはこのすべての状況の中で非常に重要なものです。祈りはそのすべての中心にあります。昼の間に働くというチャレンジを私たちが受け取るなら、私たちが計画すること、実行することすべてが祈りに基づくものとなりますように。

私たちは、忠実な支援者の皆さんが私たちと共に立てくださり、ともに祈り、パートナーとなって下さることに心から感謝しています。



Pete Stucken
ピート・スタッケン
国際エベネゼル緊急基金
エベネゼル議長

キーワード

- » アリヤー Aliyah : アリヤーとはユダヤ人がイスラエルへ移住することを表す言葉です。ヘブライ語では、アリヤーは、「上る」という定義の言葉で、エルサレムへ上っていくことを表します。
- » オリム Olim : オリムは、イスラエルへ移住するユダヤ人、つまりアリヤーをする人々です。男性の単数形は、olehで、女性の単数形は olahです。オリムとなる候補者にエベネゼルのチームはコンタクトを取り、彼らがアリヤーをすることを促し励まします。



ウクライナ紛争の犠牲者支援



ウクライナの紛争の結果避難しているユダヤ人に対してウクライナやロシアでエベネゼルチームは支援活動を行っています。多くの人がしばしばほとんど何も持たずに家を捨てて逃げるしかない状況に追いやられています。そのような人達を私たちは慰め、食料や他の必需品を提供し、さらに彼らが真の故郷であるイスラエルへ帰還するように励まします。

ガリナは飛行機に乗ることを恐れていました。彼女の家族はドネツクに住んでいました。彼女のその恐れによって、この家族は長い間イスラエルに帰還する決心ができないでいました。彼女の従妹が16年前にイスラエルに帰還していて、ずっとガリナと家族がアリヤーするように励まし続けていました。しかし、どうしてもガリナは飛行機に乗るのがいやでたまりませんでした。



Tatiana タチアナ
エベネゼル ウクライナ・ドネツク
地区代表

ある日変化が訪れました。戦争がガリナの地区に突然やってきたのです。武装した兵士達があちこちを歩いていました。そして突然爆発が起こりガリナと十代の娘のアリナは倒れたのです。「爆発はあまりにもひどいものだったので、一瞬私たちは死んだと思いました。」と彼女は言いました。彼女達はその後、一緒に地下室に入り、ガリナの夫であるパチェスコフが帰って来るのを待ちました。そして彼らはそこから30キロ離れたところにある村へ行きました。この体験を通して、ガリナは飛行機に乗る恐れを克服して、イスラエルへ帰還しなければならないと確信したのです。

しいものだと思ったのです。

ガリナは次のように言っていました。

「私たちは本当にエベネゼルのすべての支援に感謝しています。それがなければ、私たちはパスポートを申請することもできませんでした。その後領事に会いに行かなくてはなりません。その費用は私たちには払いきれない額でした。なぜなら、私たちの

年金が支給延期の状態で、受け取れなかったからです。」

エベネゼルは、これらのすべての費用を支援し、彼らがアリア便の飛行機に乗るまでの間の宿泊費なども支援することができました。「ありがとう。ありがとう。」といいながら、ガリナは泣いていました。

家族は一度ドネツクに荷物を取りに帰り、その後イスラエル領事と会うために、カルクホフへ向かうために列車に乗りました。駅に着くと爆弾を落ち始め、そこにいた人々はみなあちこちに逃げていきました。ガリナの列車はプラットフォームの暗闇の中にありました。恐れで震えながら、彼女と家族は暗闇の中列車に乗り込みました。そして、列車は次の駅に着いた時に、明かりがついたのです。その時ガリナはイスラエルへ帰還するという決断が正



主の導きの中で、エベネゼルがさらに多くのユダヤ人の家族をイスラエル帰還のために支援することができるよう、経済的支援をよろしくお願いします。

ロストフからのアリア

私たちはとても忙しくしていました。私たちが担当している南ロシア地区は、戦場となっている東ウクライナからあまり遠くない位置にあります。このチャレンジの多い時、特にピリピ人への手紙4章4節が重要な意味を持っています。「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。」



Volodya & Luba
ボロージャ&ルーバ
ロストフ・オン・ドン地区リーダー

神様は、オリムとなる可能性のある人々にアリーのメッセージを分かち合うために、私たちに忠実に力と勇気を下さっています。ある集会の中では、ウクライナの戦場から避難してきたと思われる方たちがいました。そして彼らは、精神的にとても脆い状態にあるのがわかりました。

主はご自身のあわれみのうちに、私たちに助けを与えてくださり、彼らに慰めとあわれみの言葉をかけ、アリーすることをお励ましすることができました。

皆さんのお祈りは、ロシアでのアリーの働きを支援する上でなくてはならないものです。

この写真にある二つの家族は、ウクライナからの難民の家族で、彼らのアリーの支援をすることができました。彼らがまもなく神が導いている地で安全に暮らすことができるようになることを、私たちは喜んでいきます！



エレナとその姉妹オルガ（ボロージャとともに）ルガンスク市から命がけて避難してきた



イイヤとジュリアと赤ちゃんは、エベネゼルのロストフチームが支援したウクライナからの難民

戦争からの避難

セルゲイは、帰還するためにイスラエル領事との面会を予定していると私たちに伝えてきました。その面会はいまうきました。あとは、彼にはひとつのことをするためにエベネゼルの助けが必要でした。それは、ウクライナ国境にいる息子に会うことでした。ミニバスで移動中に、彼は家族のことを話してくれました。

セルゲイと妻のイダは、昨年7月に戦場から避難して、ウクライナからロシアのロストフ・オン・ドンへ移動してきました。イダの祖母は「いつでもスーツケースを用意しておきなさい。」と言っていました。もしかすると彼女は、ホロコーストの記憶を思い出していて、急いで出て行かなければならないかもしれないと思ったのでしょう。

このような状況の中では、人々はどこへ行くのでしょうか。感謝なことに、彼らの娘は、状況があまりにも危険なら

ば、ロストフへ来てください、という招待を受けました。そしてその日は思ったよりも早く訪れたのです。彼らは急いで荷造りをして逃げました。しかし彼らの息子は危険な状況にもかかわらずウクライナに残ったのです。それで、息子の安否を気遣って、セルゲイがエベネゼルの支援を求めてきたのです。感謝なことに、セルゲイの息子も現在アリーする計画をしています！



すべては祈りから

石を取り除く

神様は動いておられます。逃げる場所がないと思われる所に道を作っておられます。そして、神は、絶望と恐れを希望と安らぎに変えてくださいました。ビザがちょうどよいタイミングで発行され、経済的な必要が極貧の家族に満たされ渡航が可能になり、時の緊急性に対して人々の目が開かれています。主が確かに私たちの祈りに答えてくださっているのではないのでしょうか！今回の小冊子におけるドラマチックなアリヤーの証は、本当に励まされます。しかしさらに、一致して祈り続けていかなければならないことを思われます。

祈りの課題

- ・困難な状況の中でイスラエルに帰還した多くのユダヤ人は、何一つ荷物を持っていくことができませんでした。どうか、主が彼らのすべての必要を満たし、このすべての体験の中で、神の愛と慰めを受けることができますように、お祈りください。
- ・エルサレム支部のチームと、エベネゼルフィッシングチームに、ユダヤ人達に实际的な支援をするために、主が力、一致、守りが与えてくださるよううに。

・アリヤーに対するすべての妨げが取り除かれるように。ベネズエラでは、移住のための方針が絶えず変更しています。アルゼンチンでは、資産譲渡についての規制が厳しくなっています。ウクライナでは、旅行自体が困難になっています。

危機は準備の時ではない

この何ヶ月かの間に、主は働きを拡大を導いておられます。ピート・スタッケンも書いていますが、国々からのユダヤ人の大規模な帰還が起こる時のために、私たちは戦略を準備していなければなりません。次のことをお祈りください。

- ・主が、この戦略のために、また实际的、財政的、祈りの支援のために、引き続き備えを与えてくださいますように。
- ・新しい支部や新しいチームのために。
- ・ユダヤ人協会との良い関係を築くために、また新しい支部を始めるために、神が知恵を与えてくださるよううに。
- ・反ユダヤ主義の世界的な台頭が、主がユダヤ人を帰還へと呼びかける



Elizabeth Webb
エリザベス ウェブ
国際エンゲージ 祈りのコーディネーター

(ゼカリヤ10:8)「警笛」となりますように。また、エベネゼルが彼らを支援する準備ができますように。



モルドバからアリヤーした家族

グローバルな祈りの呼びかけ

私たちが、この時期の祈りを、国々のイスラエル、またユダヤ人との関係に焦点をあてて祈っていく中で、主に導きを求めて祈っていきましょう。

- ・ポーランドにおけるGPCのオープニング集会で、主の御手が下るように。出席者の旅が守られるように、またこの集会の上に主の守りがありますように。
- ・このグローバルな祈りの呼びかけを聖霊様が導いてくださるよううに。
- ・主がこの祈りの呼びかけ (GPC) に召しておられる人々が従順に主の召しに答えることができますよううに。

グローバルな祈りの呼びかけ

2015年の春に、私たちはアウシュビッツ強制収容所の解放70周年記念と、ホロコースト終結70年、第二次世界大戦終結70年を記念する時を持ちます。



この100日間の期間は、イスラエルとユダヤ人のために祈るために、神が私たちに与えて下さった機会です。グローバル祈りの呼びかけ (Global Prayer Call 略してGPC) は、この期間を、私たちの国々がイスラエルを祝福するために主への祈りをささげる期間です。

このGPC国際祈りの大会は、2015年1月25日から29日の間、ポーランドのアウシュビッツにおいてオープニング集会として開催されました。この大会の主催は、エベネゼル出エジプト作戦、イスラエルを支援するクリスチャン達、そしてイスラエルのためのヨーロッパ連合です。GPC最終大会は、2015年5月10日から13日、イスラエルのエルサレムにて開催の予定です。この大会と、エベネゼルの出エジプト作戦イスラエルツアー2015に参加することも可能です。

www.operation-exodus.org

GPCや祈りの大会、ニュースレターや祈りの課題などについての詳細は、GPCのホームページにてご覧になれます。

www.100-days.eu

ヘラルド・エカートの本である「イスラエル、国々と決断の谷」(Israel, the Nations and the valley of Decision) は、GPCホームページから英語とドイツ語とスペイン語でダウンロードできます。そこには、国々に対する神の愛について、また創世記から黙示録に至るまでの聖書の学びが含まれており、主が主権を持ってイスラエルの国とユダヤ人を選び、すべての国々に関して、救いの歴史において特別な役割を担っていることも学ぶことができます。

あなたとあなたの祈りのパートナー、またあなたの教会がどのようにかわっていくべきかを主に求めてください。

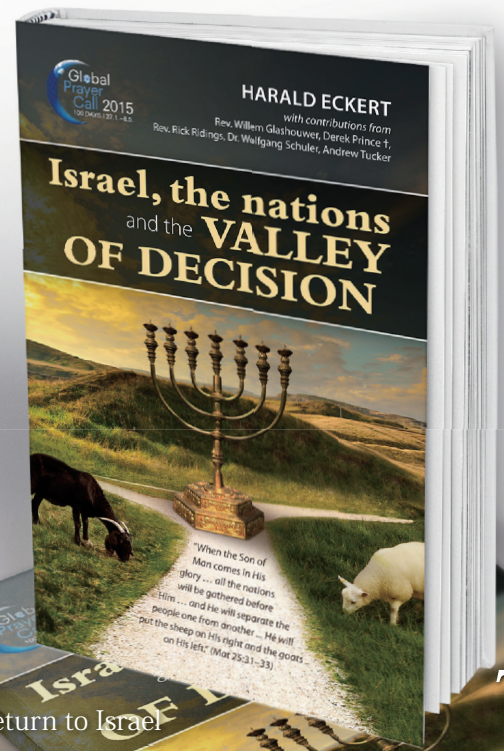
- ・祈り (断食もともなう祈りを含めて)
- ・GPCとその100日間の祈りを人々に知らせる
- ・エルサレムでの祈りの大会に参加する

Global Prayer Call—グローバルな祈りの呼びかけのビジョンは、国々が、イスラエルを批判するのではなく、イスラエルを祝福し、慰め支援するようになることです。アリヤーのために祈り、ユダヤ人のイスラエル帰還を支援することは、国々がそれを行うためのすばらしい方法です。



Philip Holmberg
フィリップ・ホームバーグ
エベネゼル スウェーデン代表

シオンで角笛を吹き鳴らせ。断食の布告をし、きよめの集会のふれを出せ。民を集め、集会を召集せよ。老人たちを集め、幼子、乳飲み子も寄せ集めよ。花婿を寝室から、花嫁を自分の部屋から呼び出せ。
(ヨエル2章15節〜16節)



イスラエルを守る方

見よ。イスラエルを守る方は、まどろむこともなく、眠ることもない。(詩篇121:4)
このチャレンジに満ちた時代、エルサレム支部は、オリムを支援し続け、神の御自身の民に対する忠実さを見えています。



Iris Goldman
アイリス・ゴールドマン
エルサレム支部

主はこの国を守り、イスラエル国防軍を用いて、神の守りの約束を成就してくださっています。「あなたを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。」(イザヤ54:17)は、このような多くの約束のひとつです。

様々なチャレンジにもかかわらず、神様は民を帰還させておられます。昨年の夏に行われた「境界防衛作戦」と呼ばれる軍事行動の時、ユダヤ人協会会長のナタン・シャランスキーは、北米からのアリヤー便を歓迎していました。そして、この何週間かの間に、3400人もの新しいオリムを迎えたと述べていました。また、その中から100人以上の若者がイスラエル国防軍に志願したということです。

エルサレム支部では、家族と離れてアリヤーする人々の支援もさせていただいています。境界防衛作戦で負傷したヨシュアの母親を慰めました。また、軍隊からの収入で生活がとても苦しいライアンという方に実際の物資支援をしました。このような若者達は、「



ベン・グリオン空港にて、歓迎を受けるドイツ人オリム達

あなたの民は・・・喜んで使える。あなたの若者は、あなたにとっては、朝露のようだ。」(詩篇110:3)のようなすばらしい主の約束の成就なのです。

私たちは、ドイツからの初めてのアリヤーの団体を受け入れることができました。7つの家族と一緒にアリヤーし、また学生のグループが、イスラエルで3年間の高校の課程を修了し、その後アリヤーするオプションがあるというナーレプログラムに参加するために来ました。彼らは早朝に到着したのですが、手続きに何時間もかかりました。これらの家族は、イスラエルへの帰還を果たし

て安心している様子がうかがえました。主をほめたたえます！

主の御手の中で、神の民が集められ、守られ、そしてこの地で私たちをひとつの国としてくださっています。「彼らに言え。神である主はこう仰せられる。見よ。わたしは、イスラエル人を、その行っていた諸国の民の間から連れ出し、彼らを四方から集め、彼らの地に連れて行く。わたしが彼らを、その地、イスラエルの山々で、一つの国とするとき、ひとりの王が彼ら全体の王となる。彼らはもはや二つの国とはならず、もはや決して二つの王国に分かれない。」(エゼキエル37:21-22)

engage:Israel
20th JULY — 3rd AUGUST 2015
for ages 18 — 35+

JOIN US IN SUMMER 2015 FOR ENGAGE:ISRAEL
TO SEE FIRST HAND WHAT GOD IS DOING!

Price includes: Good quality hotels, air conditioned bus, half board, entrance fees, tax, tips, tour guide

Price does NOT include: Flights, lunches, travel insurance, health insurance. Longer stays can be arranged through Keshet, our tour partner:
www.keshetisrael.co.il / info@keshetisrael.co.il

Tour coordinator: Johannes Barthel — info@ebenezer-international.de